

なぜ人は旅に出るのか

土井 博己

ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)

なぜ人は旅に出るのか。なぜ人は旅に焦がれるのか。なぜ人は故郷を離れようとするのか。これは永遠の謎のように言われているが、人類がこの土地に誕生した時から、わたし達の身体のどこかに“旅に出なさい”という声が消えずに残っているのではないかと思う。

私たちの種の誕生はアフリカの高原にあるらしい。それがどうして世界中に分布したのだろう。人類は山を越えればなにか幸せの土地があると思ったのかも知れない。目の前の海に漕ぎ出せば新天地があると夢見たのだろうか。自然の中にあるささやく声、人知れず生きて私たちを支えているものたちに導かれたのかも知れない。

日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルが生まれたのは、スペインのある片田舎である。ザビエルが生まれ育った家の小さな部屋に古い椅子があり、ザビエルが少年時代に思索する折、座っていた椅子である。布教のために遠いアジアの国を巡り、日本に辿り着いてからも苦難の日々を送った一人の宣教師が少年の時にどんな憧憬を抱いて、この椅子に座り、どんな表情で勉強をしていたのだろうか。ヨーロッパに日本人の人となりを最初に伝えたのはザビエルだった。ゴアにいる友人にあてた手紙にザビエルの素直な日本人の印象が記してある。「日本についてこの地で私たちが経験によって知り得たことをお知らせします。この国の人々は今まで発見された民の中で最高であり、異教徒で日本人より優れている人々は見つけられないでしょう」。世界のあちらこちらに“巡礼の道”がある。信仰とは対話であり巡礼もまた神との対話である。人間が神の存在を必要としたのは、私たちの生には哀しみが根本にあり、それを克服するために誰かとの対話が必然なのだという説もある。巡礼者の姿を見ていると、宣教師として世界を旅したザビエルの生涯と、彼の慈愛に満ちた精神を考えさせられる。

作家の城山三郎は、人生の中に“無所属の時間”を持つことをすすめている。“無所属の時間”とは、私たちが生きて行くうえの時間で、それをなすことが何かに繋がる時間、たとえば仕事に役立つとか、何かの役に立つとか、そういうものに関わることのない自由で、解放された時間のことである。本来の旅は、まさに“無所属の時間”を持つことと言える。

駅でよく見かけるポスターに「大人の休日クラブ」があり、女優の吉永小百合が「おとなになったらしたいこと」と、旅へ出かけるよう誘いかけている。若い時の旅は好奇心だけが自分の感情を募らせたが、やがて社会人ともなると旅は仕事が絡み、好奇心とか冒険心という感情と無縁となる。そして晩年を迎えた近年、好奇心や冒険心ではなく純粋な気持ちで旅をしたいと思う。そんな時、人類がこの土地に誕生した時からわたし達の身体のどこかに“旅に出なさい”という声が消えずに残っているのだと確信している。

(未来構想PF理事)

WS (ワークショップ) 研修

新講座始まる

未来構想 PF では、プロジェクトの構想から実現までのフローを理解し、自ら考えることを目的とした WS 研修を行っており、これまで 15 講座が終了、約 150 名が受講しました。

メンバーは 10 名程度で、6～8 回(3ヶ月)を単位とし定期的に実施しています。これまでに、駅の将来構想や空港アクセスをテーマにした「鉄道調査計画 WS」を中心に実施してきましたが、「施工計画 WS」もスタートしました。WS には山本会長やベテラン技術者も常時出席してアドバイザー役を行い、不定期ですが大学等からもオブザーバー参加頂いています。

■今回のテーマは「20 年後の鉄道の将来像」

□なぜ将来を(20 年後を) 予見する必要があるか？

○鉄道プロジェクトの宿命：大規模なプロジェクト程、工期がかかる

○昨今の課題：事後対応的な改良が多い

※様々な視点のもとこれまでの知見やデータなどを用いて論理的に提案することが肝要

□世の中の未来予想図と疑念 ※固定概念にとらわれない

○人口に伴って鉄道の輸送量が減少する

○生産年齢は減少するので通勤者は減る

□鉄道の役割はどうなるのか？ ※固定概念と理想のギャップ

○都市鉄道 安全対策(ホームドア)と輸送サービスの共存はどうしたらよいか？

顕在化している課題(遅延、速達性低下)に対応すべきか？

○郊外部 利用者減少するなら鉄道の固定概念にとらわれず役割を変えてもいいのではないか？

これらを、今後の社会の変化(人口、エネルギー、生活スタイル、技術革新、国土政策等)を想像しながら、議論していく。

■参加者及び進め方

□参加者は 10 名、JR 東日本の他、JRED, JRC, 鉄道運輸機構、鉄建建設からも参加しています。ファシリテーターは JR 東京工事事務所中央課長の正能俊輔さん。

10 名の内訳は土木 7 名 建築 3 名。

□9 月 6 日に第 1 回を開催しましたが、11 月まで隔週で 7 回のコースです。

第 1 回の、オブザーバーからのコメントの一部を紹介します

・データを用いるには、その意味をよく考えなければならない。例えば、社人研の人口推移データは 1 種類ではない。どのように推計されているかを確認すべき。また、外国人居住者の増加を考慮すると、必ずしも人口減少とは限らない。

・いろいろな視点があり得る。技術的な変化もある一方、やはり人間としては「ラクに」「安

く」といったニーズがある。

- ・自分自身の意見を持ってほしい。例えば人口減少についても、単純なものではない。世界の都市と比べても、東京の規模はまだかなりのものである。「豊かさ」と「貧しさ」の観点もある。人口が減ることがどういう意味を持つのか、考えてほしい。
- ・情報が増えるほど、人が動くのではないか。反発の現象も捉えてほしい。

たすきリレー（OB会員の声）

—富山湾から駿河湾へ「日本アルプス大縦走の山旅」— 三伏峠～荒川三山～赤石岳を越えて

元木 義隆

日本シビックコンサルタント株式会社（元 鉄建建設）

2012年の夏、黒部川の源流の一つである赤木沢を遡行した時に会った、日本一過酷なトレイルランと言われる山岳アドベンチャーレース「Trans Japan Alps」（富山湾をスタート地点とし、北アルプス、中央アルプス、南アルプスを越えて、駿河湾まで約415kmの距離を8日間以内で走りきる山岳マラソン）に挑む超人たちの不屈の精神力に強い刺激を覚え、「日本アルプス大縦走の山旅」を始めてからまる4年が経ち、ようやく全行程の3/4くらいまで辿り着いたのを機会に、これまで歩いて来た道りを振り返りながら、この夏の南アルプス縦走を紹介させていただきます。

2013年8月9日、富山県早月川の上流、馬場島をスタートし北アルプスの三大急登と言われる早月尾根から剣岳に登り、別山～立山～獅子岳～五色ヶ原～越中沢岳～薬師岳まで、全行程約53kmを、高山に咲く花達を愛でながら4泊5日で縦走し折立に下山した。

翌年(2014年8月)、第2弾として再び折立から入山し、黒部川の源流域に広がる雲ノ平を巡り、三俣蓮華岳～槍ヶ岳～南岳から大キレットを越えて北穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳まで縦走する計画であったが、8月15日に槍ヶ岳から南岳に向かう途中で横殴りの雨と強風に阻まれ、南岳で前進を断念し天狗原から上高地に下山した。



「日本アルプス大縦走の山旅」ルート図

※赤文字が登ってきた山々



中ア 檜尾岳山頂で '15.8.15

2014年9月には第2弾のリベンジとして、槍平から南岳新道を登り再び南岳の山頂を踏み、北アルプスでは最も厳しく困難な縦走路と言われている大キレット～北穂高岳～涸沢岳～奥穂高岳～ジャンダルム～西穂高岳～焼岳まで、天候にも恵まれたこともあり、35kmを一気に縦走した。朝日に輝くジャンダルムの神々しさが忘れられない山行であった。

第4弾(2015年8月)では旧木曾駒高原スキー場跡から入山し、木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳～越百山さらには奥念丈岳～念丈岳まで足を延ばし、烏帽子ヶ岳を経

て鳩打峠へ下山した。暑いさなか全行程約40kmの道のりを、避難小屋泊まりのため重くなった荷物を背負って、深い笹をかき分けながら歩くと言う大変きつい山行であった。

第5弾(2016年8月)では日本三大急登の一つである黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳に登り、仙丈ヶ岳～仙塩尾根～塩見岳～三伏峠まで、南アルプスを北から南へ約50kmを縦走した。

5日間とも好天というめったにない幸運に恵まれ、山頂に立つ度に少しずつ変わる日本アルプスの大展望を心行くまで堪能できた山旅であった。

今年の夏、第6弾として南アルプスの核心部、荒川三山～赤石岳を3名で縦走してきた。

8/11 予想外の好天に驚きながら14:20 鳥倉登山口を出発したが、15時45分ころ2,350m付近で突然のスコールに見舞われ、雨具を付ける間もなくずぶ濡れになる。

8/12 中岳避難小屋までの長い行程を考え、5時前に出発する。最初のピークとなる烏帽子岳山頂からは遠く富士山を見ることが出来た。ハイマツ帯を行くと遠く小河内岳が見えてくる。小河内岳の山頂からは眼前に荒川三山が見える。しばらくすると雲が何処からか沸き立ってきた。この日も前岳の登りで雨になる。濃霧のため視界がほとんどない中、15時45分に中岳避難小屋に到着した。

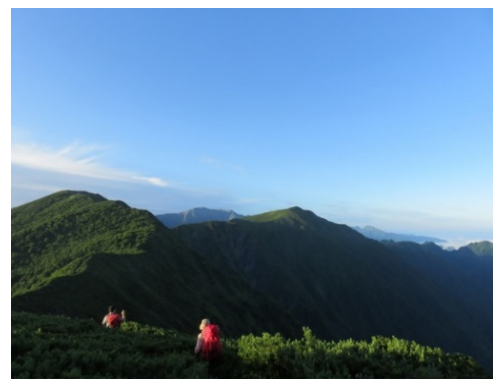
夕食の準備中に避難小屋に滑落事故の一報が無線が入る。その後も救助活動などが逐一無線で入り、緊迫した空気が張り詰め、避難小屋の厳しい現実を目の当たりにすることが出来た。



赤石岳山頂で 8/13

8/13 中岳避難小屋を4時に出発し悪沢岳(東岳)でご来光を拜んでから、避難小屋に戻り、小屋で慌しく朝食を済ませ出発する。荒川岳南面のお花畑からは赤石岳が眼前に広がる。荒川小屋で一休み入れて12時に赤石岳山頂に着く。生憎とガスがかかり遠くの山々を同定することは出来なかった。赤石小屋までの下りも可憐な花々で一杯であった。

8/14 赤石小屋からは赤石岳の雄姿が眼前に迫る。赤石小屋から少し登ったところにある、三角点からは、遠く富士



烏帽子岳へハイマツ帯を行く 8/12

山を望むことが出来た。また、第7弾で歩く予定の小兎岳・兎岳・聖岳・前聖岳、遠く上河内岳まで遠望できた。

大倉尾根からの下りは長く、疲れた足には堪えたが、最後は長い鉄製階段を一步一步踏みしめ・・・、樫島登山口に無事到着し「ハイタッチ」で締める。

バスを待つ間に、樫島ロッジ前のテントで第6弾の成功を祝い、「カンパイ～」！

この夏は天候が安定せず、雨中の行軍を覚悟して出発したが、8/11と8/12日に夕立と夜になると激しい雨がいったものの、昼頃まではまずまずの天気で快調に歩けた。天候不順が幸いしてか、今年の夏は花の開花が遅いようで、お花畑も可憐な花達がいっぱいで、日常を忘れ心なごむ山旅を堪能することが出来た。

2013年8月に富山をスタートしてから4年、駿河湾まではまだまだ遠いが、ある程度先が見えてきたようだ・・・、来年、再来年と仲間と共にしっかりと登って行こうと思う。



「カンパイ・・・！」樫島ロッジで8/14

NEWS

■最近の気になるニュース

岩井有人さん（JR東日本東京工事事務所）の Facebook 「今朝の気になる記事」より抜粋させて頂きました。

① 奥羽・羽越新幹線、国に法定調査開始要請へ（8.25）

富山県から青森県まで日本海沿岸を走る羽越新幹線と、福島県から秋田県までを結ぶ奥羽新幹線の実現を目指す「山形県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟」の平成29年度促進大会が山形市内で開かれ、必要な法廷調査を国に求めていくことを決議。

② 東南ア、鉄道建設相次ぐ（9.01）

東南アジアでは都市鉄道の建設ラッシュが続く。マレーシアでは7月にクアラルンプールと郊外を結ぶ大量高速輸送システム（MRT）の第1号路線が全線開通し、インドネシアでは同国初のMRTが2019年頃の運行開始に向け建設中だ。

③ 電気自動車時代の足音が近づいてきた（9.10）

電気自動車（EV）シフトの動きが世界的に高まっている。日産自動車はEV「リーフ」の初のフルモデルチェンジを実施、米国ではテスラが50万台という破格の予約を集めた「モデル3」の納車を始めた。

【その他】

- ・VW、EVの半数を中国で 25年に150万台販売（9.14）
- ・JR貨物、人手不足の順風、ビール4社共同輸送開始（9.13）
- ・佐川急便、貨物列車相乗り（9.09）

- ・羽田空港再拡張に 1450 億円融資 (9.07)
- ・宇都宮市、LRT 説明の常設拠点 (8.29)
- ・202X 年、再び人余り？ロボ 1000 種に (8.26)
- ・自転車シェア中国「モバイク」、日本で 10 カ所展開へ (8.23)
- ・中国企業、日本に「紅い経済圏」(8.21)
- ・台湾でダム開発の邦人技師・八田与一の施工図落札 (8.19)

■シビルNPO連携プラットフォーム (CNCP) が会報第 41 号 を発行

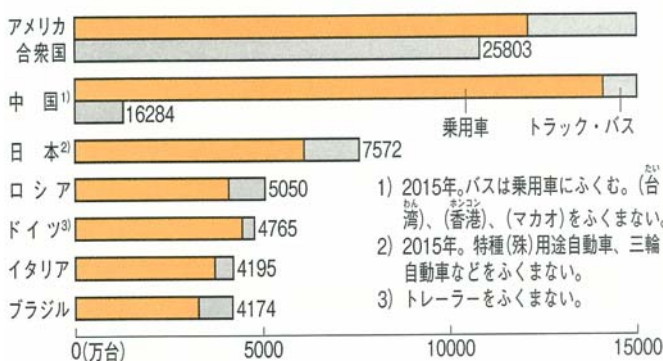
- ◇今月のひとこと CNCP 代表理事 山本卓朗
 - ◇巻頭言 シニアゴルフ・ボランティア活動って何？ 日韓建設通信新聞社 社長 和田恵
 - ◇コラム うなぎを食べ続けるには土木の協力が必要 (株)サンエコセンター 小重忠司
 - ◇トピックス 第 1 回インフラメンテナンス対象決まる
 - ◇明治 150 年企画 土木技術の危機 その一 多発する自然災害
NPO 法人 茨城の暮らしと景観を考える会 代表理事 三上靖彦
 - ◇会員からの投稿 まちづくりと中間支援 (株)都市デザイン 代表 田中滋夫
 - ◇サポーターからの投稿 川と橋を訪ねて 1 万キロ
NPO 法人 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 理事 山中鷹志
 - ◇部門活動紹介(事業化推進部門) 「CNCP アワード 2017」の受賞者決定
 - ◇会員紹介 特定非営利活動法人 いきいき 35
 - ◇お知らせ 総会の日程が決まる
 - ・ CNCP アワード 2017 の受賞式
 - ・ 講演会「シビルの原点とその系譜」 東京文化財研究所 北河大次郎
- * 詳細は CNCP 事務局にお尋ね下さい。 info@npo-cnep.org

今月の国際比較データ

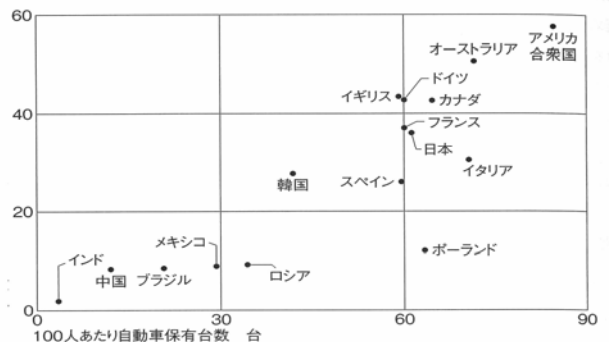
① 主な国の自動車保有台数

出典：公益財団法人矢野恒太記念会 日本のすがた 2017・日本国勢図会 2017/2018

おもな国の自動車保有台数 (2014年) (日本自動車工業会しらべ)



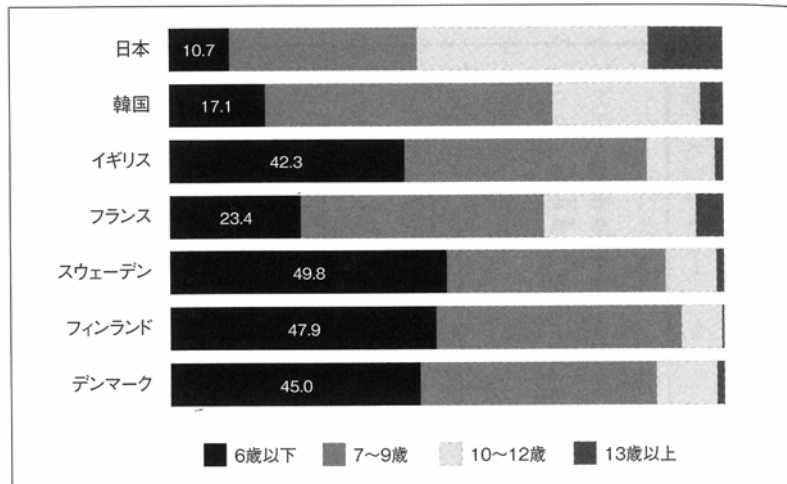
各国の 1 人あたりGNIと自動車保有率 (GNI, 保有率ともに2015年)



② 初めてパソコンを使ったのは何歳か？（15才生徒）

出典：データで読む教育の論点 舞田敏彦著 晶文社

現在は情報化社会で、21世紀に生まれた子どもは、生まれた時からコンピュータやネットに囲まれている「デジタル・ネイティブ」世代です。しかし、日本は就学前の幼少期にコンピュータに触れたという生徒は北欧諸国の半分以下です。ある機関の学力調査では、パソコンの使用開始年齢により、数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの分野で大きな差があるとか。

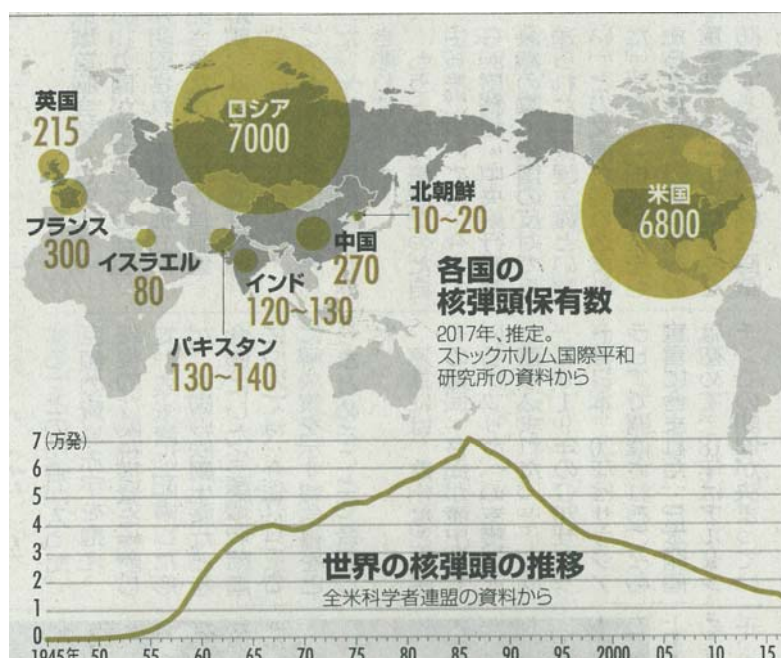


15歳生徒の回答による。
OECD「PISA 2015」より作成。

③ 各国の核弾頭保有数（2014年推定）

出典：朝日新聞 2017.07.09

核兵器禁止条約が7月7日国連本部で採択された。人道的見地から核兵器の存在を否定した画期的な内容だが、核保有国は拒絶しており軒並み不参加の状況である。



PF書店

① 人口減少時代の土地問題 吉原祥子著 中公新書

北海道庁は土地売買の事前届け出を義務付け、登記簿上の土地所有者4千人余に通知したところ、45%があて先不明で戻ってきたといういわゆる「所有者不明」であった。

根底には人口減少で土地需要が縮小し、大都市を除いては、もはや地価は上がらないという構造的要因がある。こうなれば農林業の集約化や空き家活用によるまちづくりなどが、所有権の壁にぶつかってすすまなくなったり、震災復興事業をはじめ様々な事業が、土地の権利確定に膨大な時間と労力を要するため遅れたり暗礁に乗り上げたりすることとなっている。本著は「所有権と利用権の分離」というラディカルな思考にもつながっていく重要な問題提起をしている。



持ち主がわからない土地が九州の面積を超えている。

中公新書 2146 定価 990円(税別)

② 日本人は大災害をどう乗り越えたのか (遺跡に刻まれた復興の歴史)

文化庁編 朝日新聞出版

日本列島の各地に住み着いた私たちの祖先は、みずからが住む地域でどのような災害が起こるのかを経験的に知っており、信仰、年中行事、伝説、記念碑、文書などというかたちで世代を超えて継承してきたが、この知識体系を「民族知」と呼んでいる。

文化庁主催「発掘された日本列島 2016」展の関連企画として、東京江戸博物館で7回の連続講演会「復興の歴史を掘る」が開催された。本著は、その時の講演記録を一書にまとめたものである。本書を通読すれば、弥生時代から近世・近代、そして海外を含むさまざまな災害復興の代表的事例を知ることが出来る。

東日本大震災は私たちに大きな教訓を残しました。それは過去の災害を知り、そこから学び取ることが必要だというものです。



③ 40才が社長になる日 岡島悦子著 幻冬舎

新卒が辞めない、離職率は3%、社員の満足度が高い・・・と聞けば理想的なホワイト企業と思いきや、著者によると、それは「危ない」会社だとか。何故なら、こういう組織は環境変化に弱いから。すなわち企業の成長に欠かせない破壊的イノベーションが起こせず、時代の波にのまれてしまう。そうならぬ処方として、2025年に40才社長が排出する「サクセッション・プランニング」の重要性を著者は訴えている。

企業はITネイティブ世代を、20代のうちからどんどん抜擢する必要があり、年功序列なんていってられない状況にあるとか。若い世代の抜擢に伴う40才以上の人たちの反感をどうするのか、そんな課題が見えてくる。



事務局通信

◇国際比較データ募集

毎号数例の国際比較データを掲載し皆様に楽しんで頂いています。分野は問いません、もし何か国際比較データを目にされたら、事務局（下記連絡先）までご一報をお願いいたします。

◇皆様からの投稿、歓迎します

会員の交流を目的にこのPF通信を発信しています。（参加型が目標です）

VOICE は「会員の声」、**たすきリレー**は「OBの声」を紹介しています。皆さんの意見やお持ちの情報を広く取り上げたいと思いますので、どしどし投稿して下さい。

～ ● 今月の写真コーナー ● ～

夏休みの山行で見掛けた可憐な花達の写真です。
たすきリレーにも掲載していますが「日本アルプス大縦走」の第6弾で、
三伏峠～荒川三山～赤石岳～榎島へと歩いてきました。



荒川岳から南面に赤石岳を臨む



三伏峠のお花畑



赤石沢 2600mタヌキモ科ムシトリスミレ



荒川岳お花畑



前小河内付近の花

（提供：日本シビックコンサルタント 元木義隆さん）

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯:090-9150-8613 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28